

宇都宮市立宝木小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがあると思う」の肯定的回答は86.9%で、県平均より7.7ポイント上回っている。それに関連して、「自分のよさを人のために生かしたいと思う」の肯定的回答は4.2ポイント、「自分もっている能力を十分に発ぎしたい」の肯定的回答は0.8ポイント県の平均を上回っている。これらのことから、児童は自分のよさや能力を認識することができており、その力を他者のために生かしていきたいと感じることができている。今後も、児童のよさや能力を大切に伸ばしていくとともに、その力を発揮して活躍する場所の設定を継続して行っていく。

○「次の教科などの学習は、しょう来のために大切だと思いますか」の肯定的回答は99%で、県平均より3ポイント上回っている。それに関連して、「算数の授業で問題のとき方や考え方が分かるようにノートに書いている」の肯定的回答は2ポイント、「算数の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考えている」の肯定的回答は4.2ポイント県平均を上回っている。算数へ感じている必要感や学習への取り組み方の工夫などを、他教科にも感じさせられるように、今後も指導していきたい。

●「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の肯定的回答は87.9%で、県平均より6.1ポイント上回っている。一方で、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」は肯定的回答が17.5ポイント下回っている。特に、家庭学習については「家で学校の授業の予習をしている」は肯定的回答が8.6ポイント、「家で学校の授業の復習をしている」は肯定的回答が16.1ポイント下回っている。他にも、「家でテストでまちがえた問題について勉強をしている」は肯定的回答が16.4ポイント、「家で学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」は肯定的回答割合が12.9ポイント下回っている。これらのことから、学習のおもしろさは感じているが、宿題などの与えられた課題をこなすことが中心となっており、各自が自分に必要な課題や興味をもった内容についてそれぞれの方法で取り組むことが難しい状況にあることが分かる。今後も、児童に勉強の楽しさを伝えながら、自主学習のやり方などを児童同士が共有する機会を増やしていくことで、各自が自分に合った方法で学びを深めていけるように支援していく。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」の肯定的回答は県平均を10.5ポイント上回っており、自分の考えを言葉や文章で書くことに苦手意識をもっている児童が多いことが分かる。また、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の肯定的回答についても県平均を9.5ポイント下回っており、書くことと同様に話すことにも苦手意識をもっている児童が多いことも分かる。これらのことから、授業の中で話し合い活動を取り入れながら、自分の考えを文章化・言語化するにはどうすればよいのか指導していきたい。